

# 壊れた楽器を救うため！ 職人ヒーロー へリペアマンくんに なりたくて！！

ステージライトを浴びて、キラキラ光る管楽器。観客にたくさん感動を与えられる演奏者になれたらスゴイけど、それを陰で支える仕事もカッコイイ。そこで目指すことに決めたのが、吹奏楽の陰のヒーロー、リペアマン。管楽器の修理技術を学んで、最上の音色を世の中に響かせるべく、4人の研修生たちが日々奮闘している。

## 取材レポート 管楽器修理職人 養成スクール

アニメや映画に取り上げられ、最近大ブームの吹奏楽。管楽器生産量が日本一の浜松市でも吹奏楽の活動が活発だ。市内の中学校や高校のほとんども吹奏楽部があり、民間の吹奏楽団も20以上存在する。

しかし、学校の吹奏楽部で使われる管楽器は部員が順繰りに使い回すので、空気の漏れやへこみなどが目立ち、修理が必要なものがたくさんある。そういう楽器を修理する職人のことを「リペアマン」という。

なんだか聞き慣れない職業だが、最近では吹奏楽の人気に伴ってリペ

アマンを目指す人たちが増え、専門の学科ができた短期大学もあるほど。浜松市東区半田山にあるリペアマンの養成塾「ウインドボックス リペアスクール」でも現在4人の研修生が管楽器の修理技術を学んでいる。

**楽器に関わる仕事がしたい！**

スクールの専攻は、修理技術を1年間学ぶ「セールスエンジニアコース」と、さらに専門的な技術をもう1年学ぶ2年制の「リペアテクニシャンコース」に分かれている。修了後は楽器販売店で営業や修理をするスタッフになったり、楽器メーカーの製造部門や協力工場、修理専門の工房に就職したりと、進路はさまざまだ。

今年入塾したのは4人で、1年制コースが1人、2年制コースが3人。1年目は同一のカリキュラムなので、現在は4人一緒に受講している。

カリキュラムの中で最も時間をかけて学ぶのがフルートの修理技術。コンマ1ミリ未満の調整が求められる、細かくて繊細な作業だ。



### ウインドボックス リペアスクール

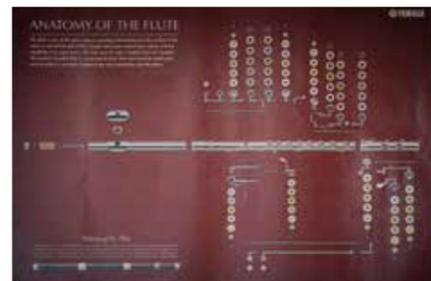
管楽器の修理と販売を主に手掛けるウインドボックス（株式会社久米）が運営するリペアマン養成塾。高度で幅広いリペア技術を誇り、奏者や楽器メーカーからの信頼も厚い。浜松市東区半田山





講師が修理をする様子を観察し、大事なことはノートに取りながら手順や方法を学ぶ。その後、実際に修理の課題を与えられ、できあがったら提出。講師がその内容を評価し、必要な場合はまた修正、という実習を繰り返す。

講師が修理をする様子を観察し、大事なことはノートに取りながら手順や方法を学ぶ。その後、実際に修理の課題を与えられ、できあがったら提出。講師がその内容を評価し、必要な場合はまた修正、という実習を繰り返す。



「どんな形でも、楽器に関わる仕事ができたらうれしいです」と語る研修生たち。吹奏楽の晴れやかなステージを支える陰のヒーロー「リペアマン」を目指して奮闘中だ。

**リペア技術の習得は実践あるのみ！**  
講師を務めているのは、実際に管楽器修理を手掛けてきた超ベテランのリペアマンたち。講師のことは「先生」と呼ばず、「さん」付けで呼ぶのが開講からの習慣だ。



入塾して半年近くが過ぎ、研修生たちもすっかり打ち解けて、時には講師と冗談を交わしながら、和やかなムードで実習が進む。

講義だけの授業はなく、実践あるのみ。最初は楽器を分解し、パーツの名称や、楽器の仕組みを学ぶことから始まる。その後、フルート、クラリネット、サクソフォンと、1週間ごとに楽器を変えて、各楽器の細かい部分の修理技術を繰り返し学んでいく。

の動機を聞くと、「友だちの楽器を直してあげたらすごく喜んでくれたから」「自分の大切な楽器を先輩が直してくれたことに感激して」など、楽器修理にまつわるエピソードがきっかけが多い。

吹ける楽器  
ホルン



戸田菜月さん(18歳)

戸田さんは浜松市内の高校を卒業後、このスクールへ入塾。中学時代から吹奏楽部でホルンを担当し、自分の楽器も所有。中1のときに先輩が壊れた楽器を直してくれたことに感激して自分も修理ができるようになってほしいと思い、リペアマンを志望。笑顔がかわいいムードメーカー。

吹ける楽器  
サクソフォン



増田拓海さん(19歳)

増田さんは浜松市内の通信制高校を卒業後、4人の中で唯一の1年制コースに入塾。中学時代は吹奏楽部でサクソフォンを担当。自分の楽器が壊れたときにいろいろと調べて直してみた経験からリペアマンの仕事に興味を持った。来年3月の修了後は管楽器修理工房への就職を希望。

吹ける楽器  
トロンボーン  
フレンチホルン



太田敏和さん(24歳)

太田さんはスクールの最年長者で、しっかり者のお兄さんの存在。浜松市内の高校を卒業後、東京の創価大学に入学したが自分に合わず中退。浜松に戻り、塾講師をしながら民間の吹奏楽クラブに所属しトロンボーンなどを演奏。将来は楽器に関わる仕事に就こうとスクールに入塾。

吹ける楽器  
チューバ  
ユーフォニアム



長谷川勇也さん(22歳)

長谷川さんは福井県の出身。金沢工業大学で機械工学を学んでいたが、2年次に休学してイスラエルへ語学留学。現地で友人のアコーディオンを修理して喜んでもらったのがきっかけでリペアマンを志望。大学を中退し、東京で就活中に知り合ったトランペッターの紹介でこのスクールへ。